



いのちかがやく京都市動物園構想 2020



～いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園となるために～

【概要版】





京都市動物園が目指す方向性と取組

「いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園」となるために



京都市動物園理念

動物園の役割は時代とともに変化してきました。地球規模での環境破壊が進むなか、いま、現代における新たな動物園像が求められています。人間もまた地球に生きる動物の一員であることを踏まえ、京都市動物園は、ヒトを含む全ての動物のいのちと暮らしに敬意を持って向き合い、市民の皆様とともに動物園文化の成長と発展に寄与することを目指します。

行動指針

①種の保存

絶滅のおそれのある動物種の繁殖に取り組み、希少種のいのちをつなぎ、種の保存に寄与します。

②動物福祉

動物の福祉に配慮し、いのちを輝かせる飼育・展示を行います。

③研究

野生動物の行動や生態、動物福祉等の研究を推進し、生物多様性の保全に寄与します。

④楽しく学ぶ

種の保存の取組や研究の成果を活かし、幅広い年齢層を対象に環境教育を実践し、楽しい学びの場を提供します。

⑤安心安全

安心で安全な動物園であり続けます。

⑥発信

様々な市民・団体との共汗により、人と動物に係る文化を発信します。

共汗でつくる新「京都市動物園構想」(現構想)策定以降の成果

○入園者数と収益

・グランドオープンした平成27年度(2015)には、昭和54年(1979)以来、36年ぶりに120万人を越え、前年度比は50.3%増となり、入園料収入も前年度比が50.1%の大幅増となった。

○中学生以下の団体入園者数の増加

・平成27年度(2015)は保育園、幼稚園、小学校、中学校全てにおいて前年度比15%以上増加した。

○教育機関や各種団体向けの講演回数も大幅に増加

・平成25年度(2013)以降大幅に増加、現在では年間200件近くの講演を実施している。

○来園者からの高い評価

・来園者アンケート(平成30年度(2018)実施)から見える高い満足度としては、「園内の雰囲気」、「家族で楽しめた」、「動物の見やすさ」、「入園料」等で高い評価をいただいた。

○生き物・学び・研究センターの設置

・平成20年(2008)4月に京都大学との間で「野生動物保全に関する教育及び研究の連携協定」を締結。平成25年(2013)4月に本園における学術研究と環境教育をより一層推進するために設置。平成30年(2018)1月31日に文部科学大臣から研究機関として指定を受け、科学研究費補助金による助成を受けて研究を推進することが可能となった。





5つの柱と27の施策 (◇は新たに追加した施策)



柱1 生物多様性の保全に力強く貢献し、日本をリードする動物園

- 施策 1 持続可能な飼育展示・繁殖の推進
- 施策 2 国際的な希少種の域外保全^{注1}の推進
- 施策 3 国内希少種の域外・域内保全^{注2}の推進

柱2 野生動物の行動や生態、福祉を研究する世界水準の動物園

- 施策 4 希少種の保全や動物福祉の研究の推進 (◇)
- 施策 5 動物の子育て、競合、協調から人間・社会を学ぶ研究(人間教育)の推進 (◇)
- 施策 6 遺伝子解析を駆使した繁殖・保全の推進 (◇)
- 施策 7 学術機関との連携による研究・教育普及活動の推進 (◇)
- 施策 8 動物福祉の研究の飼育環境・教育普及事業への活用 (◇)

柱3 文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園

- 施策 9 動物園における環境教育の充実 (◇)
- 施策 10 「きょうと☆いのちかがやく博物館」事業(4園館連携)の推進 (◇)
- 施策 11 京都府立植物園との政策と事業の融合・連携の推進 (◇)
- 施策 12 国内外の実習生の受入れによる教育の場の形成 (◇)
- 施策 13 京都市立芸術大学との連携等、文化を発信する場としての機能向上 (◇)
- 施策 14 世界に向けた研究成果や動物園の取組の発信 (◇)
- 施策 15 学校教育の素材としての動物園の活用の推進

柱4 多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園

- 施策 16 岡崎地域活性化のための連携
- 施策 17 外国人観光客の誘致(多言語化等) (◇)
- 施策 18 「環境都市・京都」の発信による教育旅行の誘致 (◇)
- 施策 19 効果的な広報活動の展開

柱5 「近くて楽しい動物園」の更なる発展

- 施策 20 展示の充実及び「エコ・Zoo」の推進
- 施策 21 ユニバーサルデザインの推進
- 施策 22 顧客満足度(CS)の高いサービスの提供
- 施策 23 市民ボランティアとの協働 (◇)
- 施策 24 共汗に基づく市民及び企業の参加促進
- 施策 25 ハード整備の推進 (◇)
- 施策 26 動物舎の計画的な維持・管理充実 (◇)
- 施策 27 運営体制の充実及び更なる安全対策の実施 (◇)

注1 域外保全：絶滅危惧種を守るため、動物園等安全な施設に生きものを保護して、それらを増やすことにより絶滅を回避する方法。

注2 域内保全：絶滅危惧種を守るため、本来の生息地で自然環境を維持しつつ、その個体群や群落の保全を図ること。



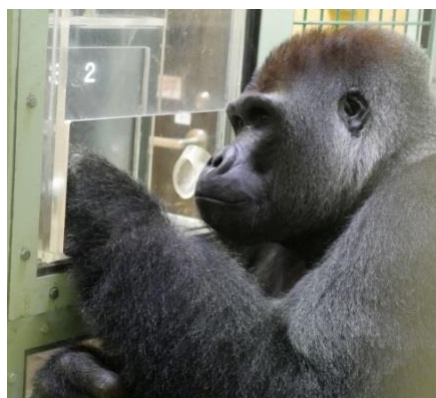
柱1 生物多様性の保全に力強く貢献し、日本をリードする動物園

持続可能な飼育展示を維持するために繁殖を推進し、動物福祉に配慮した取組をより一層強化して飼育動物の心理的な幸福を目指します。国内のみならず海外の動物園とも連携しながら、日本における飼育・繁殖拠点として国内外の希少種の保全に取り組みます。



(飼育動物の例：キリン) (飼育動物の例：チンパンジー)

柱2 野生動物の行動や生態，福祉を研究する世界水準の動物園



野生動物の行動や生態の研究を希少動物の保全に活かすとともに、動物福祉の研究を更に推進します。これらの研究を、飼育環境の改善や教育普及事業に活かすとともに、研究成果を日本国内だけでなく世界に向けて積極的に発信します。また、他の研究機関と連携し、多様な観点から研究を進めます。

(事例：ゴリラの知性の研究)

柱3 文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園

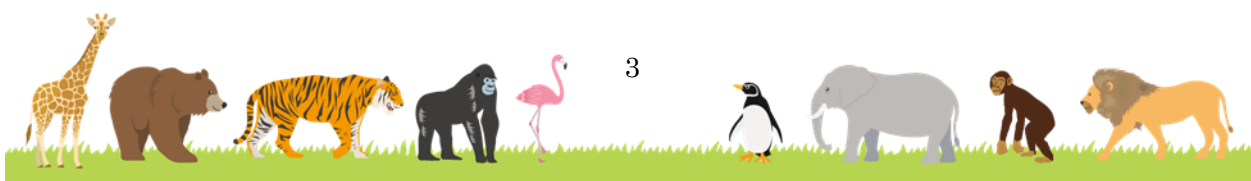
生物多様性の啓発や地球温暖化対策の理解を深めることはもとより、SDGs（持続可能な開発目標）の課題等、動物園に求められる教育のニーズが高まっていることを踏まえ、動物園における環境教育の充実を図ります。また、4園館連携（京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館、京都市青少年科学センター）を進め市民の皆様楽しく学ぶ機会を広く提供します。



(事例：SDGsの17の目標)



(事例：京都府立植物園でのワークショップ)



柱4 多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園

京都市における文化・観光拠点の1つである岡崎公園に立地している地理的環境を活かし、岡崎地域の活性化に寄与するとともに、来園者の増加に繋がる取組を進めます。また、国際文化観光都市・京都に立地する動物園として、園内の多言語化等、インバウンド対策を進めます。動物園に関する様々な情報を、多くの方々に分かりやすく伝えるため、広報媒体を有効に活用し、効果的な広報活動を展開します。



(事例：岡崎の魅力伝える動物園ツアー)



(事例：動物園 Twitter ページより)

柱5 「近くて楽しい動物園」の更なる発展

時代に即した展示技術の工夫、環境に配慮した「エコ・Zoo」の取組、ユニバーサルデザイン、顧客満足度の高い施設づくりやイベント運営を進めます。また、市民ボランティア制度やサポーター制度の充実等、市民及び企業との協働による運営を目指します。さらに、サル島等、動物福祉の観点から課題のある園内動物舎について飼育展示の見直しと施設整備の検討を進めます。そして、本構想の各施策を進めるために必要な管理体制を整え、安全対策に配慮しながら、効果的で効率的な業務を進められる職場環境づくりに努めます。



(事例：エネルギー管理システム)



(事例：ボランティアズの活動)



(事例：サル島 (昭和12年竣工))





どんな動物がみられるの？ 京都市動物園コレクションプラン



コレクションプランとは、動物の保存、繁殖に取り組むために動物を選定、分類し、管理していく計画のことです。

京都市動物園のコレクションプランは、(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)^注のコレクションプラン(JAZA collection plan, JCP)を基に検討し立案しました。本園のこれまでの取組や実績、飼育状況に加え、動物福祉の観点、種の保存への貢献度、教育的価値、学術的価値、展示効果を指標にして選定し、最優先種、優先種、維持種、調整種の4つのカテゴリーに分けて管理していきます。

展示する動物種及び個体数を適正に管理するための見直しは定期的に行っていきます。

最優先種 5種 (全飼育種の約4%)

種の保存に貢献でき、特に繁殖を優先する種。



アジアゾウ
EN(IUCN)



ニシゴリラ
CR(IUCN)



グレビーシマウマ
EN(IUCN)



ツシマヤマネコ
CR(環境省)



イチモンジタナゴ
CR(環境省)

優先種 20種 (全飼育種の約17%)

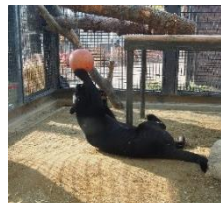
より良い飼育管理及び飼育環境作りに取り組む種。



チンパンジー
EN(IUCN)



マンドリル
VU(IUCN)



ジャガー
NT(IUCN)



ヤブイヌ
NT(IUCN)



フンボルトペンギン
VU(IUCN)

【コレクションプランにおける飼育動物の分類】

(令和元年(2019)9月末時点)

	哺乳類	鳥類	両性・爬虫類	魚類	計
最優先種	4			1	5
優先種	11	4	5		20
維持種	23	36	31	1	91
調整種	3	2			5

注 (公社)日本動物園水族館協会(JAZA): Japanese Association of Zoos and Aquariumsの略。国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するためにできた、国内の148もの動物園や水族館の集まり。



維持種

91種（全飼育種の約75%）

飼育展示を維持する種。

ショウガラゴ、ニホンツキノワグマ、ブラジルバク、ムササビ、シロフクロウ、エミュー、アオバト等

調整種

5種（全飼育種の約4%）

個体群の維持管理が困難なことや動物福祉の面から改善が困難で飼育展示の見直しが必要な種。



・ライオン

本来は群れで暮らすライオンを飼育するための十分な広さが確保できないことから、動物福祉に配慮し、令和2年1月に亡くなった個体を最後に飼育展示を中止します。



・オナガゴール

国内で唯一の個体であり、飼育展示の安定的な持続性が保たれないことから、現個体を最後に飼育展示を中止します。



・アカゲザル

飼育園が少なく、多様性を維持するためのオス個体の入替えができず個体群の維持が困難なことから、現個体群を最後に飼育展示を中止します。



・シロエリオオヅル

タンチョウ舎の一部を仕切り飼育を継続していますが、将来にわたり十分な広さを確保できないことから、引き続き移動先を探します。



・ヒヨドリ

野生鳥獣救護事業の救護対象から外れ導入が困難なため、現個体を最後に飼育展示を中止します。

国際自然保護連盟（IUCN：International Union for Conservation of Nature and Natural Resources）レッドリスト

Critically Endangered (CR)

深刻な危機

Endangered (EN)

危機

Vulnerable (VU)

危急

Near Threatened (NT)

準絶滅危惧

Least Concern (LC)

低懸念

絶滅の危険性（IUCN レッドリスト）

低 LC NT VU EN CR 高

絶滅の危険性（環境省レッドリスト）

低 NT VU EN CR 高

環境省レッドリスト（括弧内は IUCN における分類を示す）

絶滅危惧ⅠA類（CR）

ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧ⅠB類（EN）

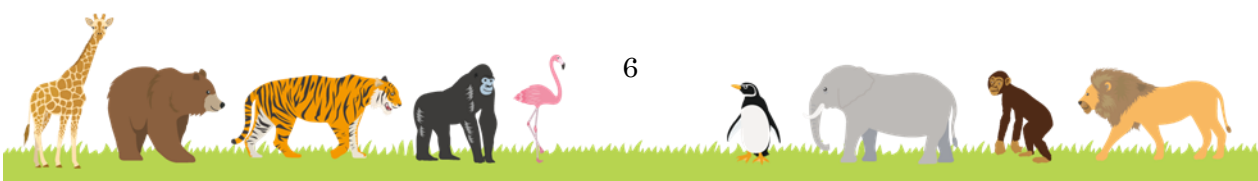
ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧Ⅱ類（VU）

絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧（NT）

現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種





発行年月：令和2年2月発行

印刷物番号：313221

発行：京都市文化市民局動物園

住所：〒606-8333 京都市左京区岡崎法勝寺町 岡崎公園内

URL：<https://www5.city.kyoto.jp/zoo/>

